

1 骨子案について

(1) 全体について

- ・前回の案より前向きな表現になっておりよいと思う。
- ・他区では、子ども用にわかりやすく記載したものを配布している。新ビジョンについて、小学生でもわかるもの（絵本など）を作ってはどうか。
- ・行政への提言ではなくて、区民自身が、私たちがこうするといったもの。
- ・II方針：区民主体で書かれているかどうか。
- ・新基本構想と新教育ビジョンとがうまくつながるとよい。

(2) キャッチフレーズについて

(案) 学びを贈りあい、人が育つ杉並の教育

- ・現教育ビジョンは、CSを確立していくうえでとても大切。地域、学校、保護者のかかわりについて上から下まで通っており、そういった意味でもキャッチフレーズは非常に大切。
- ・現教育ビジョンのキャッチフレーズは、今も需要のあるフレーズでは。普遍的である。
- ・現行のキャッチフレーズを活かし、副題をつけるのはどうか。進化、発展させていく。
- ・新ビジョンになった、ということがわかるためにも、キャッチフレーズは変えたほうがよい。
- ・変えることにより、新しいことが始まるという印象。
- ・12月の教育シンポジウムでは、センスオブワンダー、ワクワク感は大事なキーワード。新教育ビジョンへの期待が感じられた。それをキャッチフレーズに反映したい。
- ・ワクワク感、わかりやすい表現がよい。
- ・「学びを贈りあう」は、わかりにくいのでは。
- ・「贈る」の具体的なイメージの共有が難しい。動画モードで共有できる言葉がよい。
- ・「贈る」は主体者の意思が働く印象。例えば小さい子どもなど、本人に贈る意思がなくても存在だけで周囲が受け取るものもあるのでは。
- ・「贈る」という漢字をあえて使うことに熱い思いを感じるが、一般には難しいのでは。
- ・「贈りあう」について、わかりにくいということ、逆にメリットとして説明するところから始めることで出発点となるのでは。
- ・「人が育つ」は、他人任せに聞こえる印象。
- ・「人が育つ」は、子育て中の保護者の立場ではシンプルでわかりやすい。一緒に学んで、一緒に育っていくということだと思った。一緒に、という意味があったほうがよい。
- ・学びを贈りあう、の「学び」とは何を指すか、説明するのが難しい印象。
- ・つながり、シェア、共に学び、共に生きる、認めあうなどからキャッチフレーズにできないか。
- ・「共に〇〇」から「〇〇しあう」（例「共に学び」→「学びあい」）とすることで、相互性、やりとり、進化したイメージがある。
- ・キャッチフレーズのターゲットが広い。あえて抽象的とするのか、それともターゲットに伝えたいのか。現在の案はわかりにくい。3秒でわかる言葉、実行することがわかるもの、具体的な方が区民はわかりやすいのでは。現在の案ではどの方向に行くのかがわからない。
- ・学びあうことで、学びを私物化しない、共有財としていく、自分たちが主役、といった感じを

出したい。

(3) I 尊重すべき価値 について

(案) ◇つながりを感じ、共に学び、共に生きる

◇ちがいを認めあい、自らの人生をよりよく生きる

◇信頼しあい、誰もが社会のつくり手になる

- ・前回の案（～することなく）から、ポジティブな表現になってよい。
- ・尊重「すべき」価値は、尊重「する」価値 のほうがよいのでは。
- ・「共に〇〇」から「〇〇しあう」へ（キャッチフレーズ意見と同様）。
- ・「つながりを感じ」は2者関係に感じられる。
- ・「認めあう」は10年ビジョンでは弱い印象も。「いかしあう」などどうか。
- ・「いかしあう」はわかりにくいのでは。
- ・「よりよく生きる」は「自分らしく」のほうがよいのでは。
- ・「信頼しあい」は冒頭にあると強制力が働く印象。信頼をつくり出すといったイメージにした
い。

(4) II 基本方針・視点について

(案) 1 子どもの思いを尊重する

2 ちがいを認め、高めあう

3 対話を大切に、かかわりあう

4 誰もが社会の当事者として、社会をつくり、担う

5 学びを贈りあい、学びを通して人がつながる

- ・「子どもの思いを尊重する」について、思いを尊重することは、子どもだけでなく大人にとっても大事である。一人ひとり、などとするか。一方で、子どももいずれ大人になることから、あえてここは子どもとするか。
- ・「高めあう」は、高める、という一方向性が気になる。
- ・1の○に子どもの意見表明権とあるが、誰が受け止めていくのか。CSでは、子どもの声を大人が受け止め、こたえられること、こたえられないことをきちんと説明することが大切としている。そのあたりが曖昧なまま、方針とすることには少し怖さがある。子どもたちの思いや声を受け止められる社会や環境をみんなで作っていこう、ということが大切ではないか。

○結論・方向性

骨子案の文言については決定に至らず。会長預かりとし次回審議会までに調整。

2 ビジョンの実現に向けて行政に期待する具体的取組について

- ・学校は、新しいものが来た際に、「無理」ではなく「やってみよう」という現場になったらいい。行政にはそのための支援をしてほしい。
- ・先生の価値観は人それぞれ。先生方が多様性をどう受け止めていくかが気になっている。
- ・学校を自由に使えるように、例えば地域が使えるように、地域のプラットフォームとして。